

小・小連携の推進（案）

1 目的

- 授業単位での交流は、小規模校の小学生同士が交流することで、集団で活動することの楽しさを知り、多様な価値観に触れる。（再編に向けた取組とは切り離して考える）
- 行事単位での交流は、上記の目的に加え、効率的に行事を実施するとともに再編に向けた取組にもつなげる。

2 授業単位での交流

（1）集団で行うことで教育効果の高まる授業を合同で実施する。

- ・少人数の学校では試合や発表時に子どもたちの達成感や成就感が得られにくい
⇒学年や学級単位で試合や発表会を合同で実施することを目的に授業内容を揃えて取組んでいく。

例）体育の球技等団体競技の交流試合

　　音楽の合唱や合奏の発表

　　総合的な学習の時間の発表 等

- ・少人数の活動の解消を目的とするため近隣校で取組んでいく。
- ・実施場所としてはお互いの小学校もしくは生野中学校とする。
- ・実施に向け、教務主任の連絡調整会議で各校の校時の調整や行事の調整、実施する教科、学年を検討する。
- ・H30は試行として、各校いずれかの学年で合計2回実施。
- ・H31に向けて、実施学年・実施教科を検討し、実施に向けて、各校の年間指導計画の調整を行う。

（2）4小学校合同でイベント的な授業を実施する。

- ・生野中学校区版『English Day』の実施
- ・別紙参照

3 行事単位での交流

（1）各校の行事を効率的に実施する。

- ・H31からの実施に向け、管理職や教務主任の連絡調整会議で、実施行事の検討、行事日程の調整等を行う。可能であれば4校合同での実施をめざす。
例）バス等を合同で借り上げ、卒業遠足（キッザニア甲子園）を実施
　　費用を折半し、合同で鑑賞行事を実施 等
- ・H30は、管理職や教務主任の連絡調整会議において調整検討し、複数校で実施可能な行事については実施する。

（2）再編後を視野に入れ、合同で行事を実施する。

- ・学習活動を伴う行事（林間学習、社会見学等）を4校合同で企画し実施する。
- ・H32からの実施をめざし、まず管理職の連絡調整会議で検討する。

生野中学校区版『English Day』実施（案）

1 目的

- 英語を使った活動を通して英語を集中的に使う体験をし、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を養う。
- 大阪市外国人英語指導員（C-NET）をはじめ、小学校中学校の教員・児童生徒が英語による活動を通して交流し、連携を深める。

2 対象

- 生野中学校区内の小学校3、4、5、6年生

3 時期

- 中学校の各学期末テスト（各回で参加学年を変える）

4 場所

- 生野中学校（ホール、多目的室等）

5 時間

- 14時～15時30分（5・6時間目を想定）

6 実施体制

- C-NET、中学校英語科教員（4名）
- 中学校生徒会、英語部員等（可能な範囲で）

7 活動内容

- アクティビティを数個設定し、児童がグループごとに体験できるようにする。
- 活動内容については、平成30年度の大阪市イングリッシュ・デイの内容をふまえ、充実を図ることとする。

	活動名（仮称）	概要
1	会話ドッジボール	ドッジボール（中あて様式）で外に指導者がおり、児童は当てられた外に出て、指導者の質問に英語で答える。（例）What color do you like?
2	英語福笑い	指導者が言う英語を聞いて、顔や体の部分を置き、キャラクター等を完成させる。
3	グループ迷路	5人程度のグループで一列につながり、指導者の声かけで、進みゴールまでいく。（例）Go straight. Turn right.
4	ダンス	指導者の英語の指示に従い、一緒にダンスを踊る。
5	狼が来た	「だるまさんがころんだ」の要領で児童が“What time is it now?”と聞き、指導者が“It's 7”と答える。“It's 12”になると“Lunch Time”と言って児童を捕まえにいく。
6	「何が好きかな」コミュニケーション	各ブースに到着時に、児童がその指導者の好きなものを予想し、グループで“Do you like red?”とあたるまで質問する。あたらなければ、指導者がヒントを出していく。